

COVID-19流行下に伴う保険薬局状況の 変化及び薬薬連携に関する実態調査

日本臨床腫瘍薬学会 総務委員会
報告：令和3年3月

【調査目的】

- 2020年度診療報酬改定時に新設された特定薬剤管理指導加算2について、各施設における取り組み状況と問題点を把握すること。
- COVID-19流行下において、保険薬局薬剤師の業務の変化を把握すること。また、把握した情報から、今後の対策に活用する。

【調査方法】

- 対象者：
日本臨床腫瘍学会に所属する保険薬局薬剤師
- Googleフォームを用いたアンケート調査（無記名式）
- 日本臨床腫瘍学会会員用メーリングリストより調査依頼
- 調査期間：2020年11月24日～12月18日

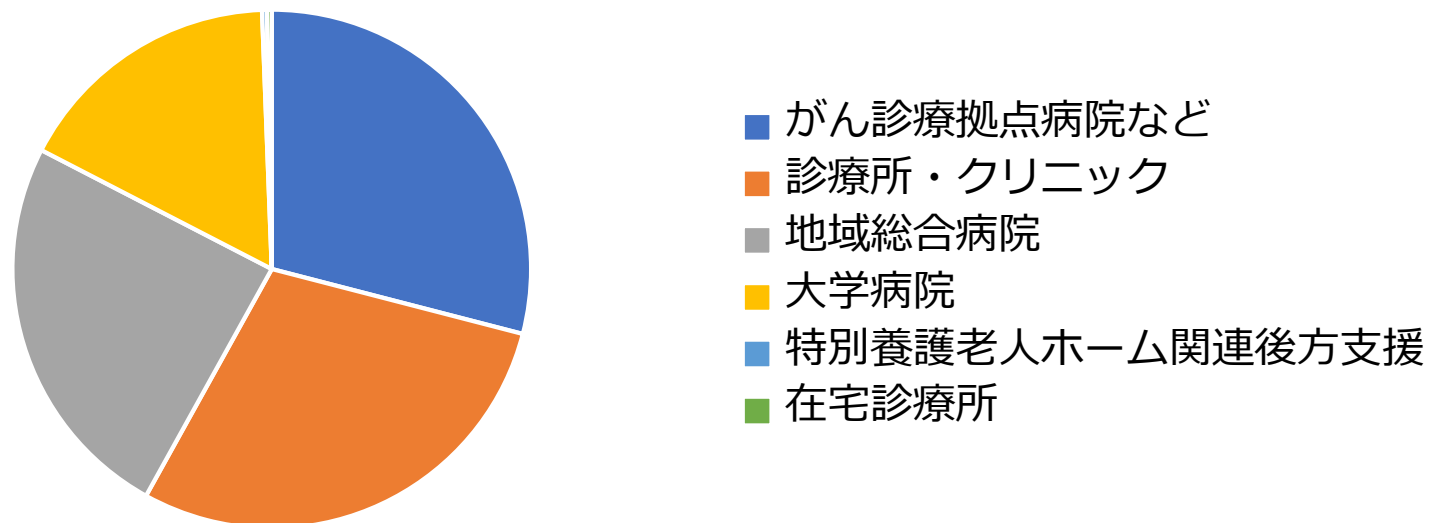
【集計結果】

- メール送信 893件（内、7件送信不可）
- 有効回答率 21.9%（194名/886件）

1. 薬局情報について(n=194)

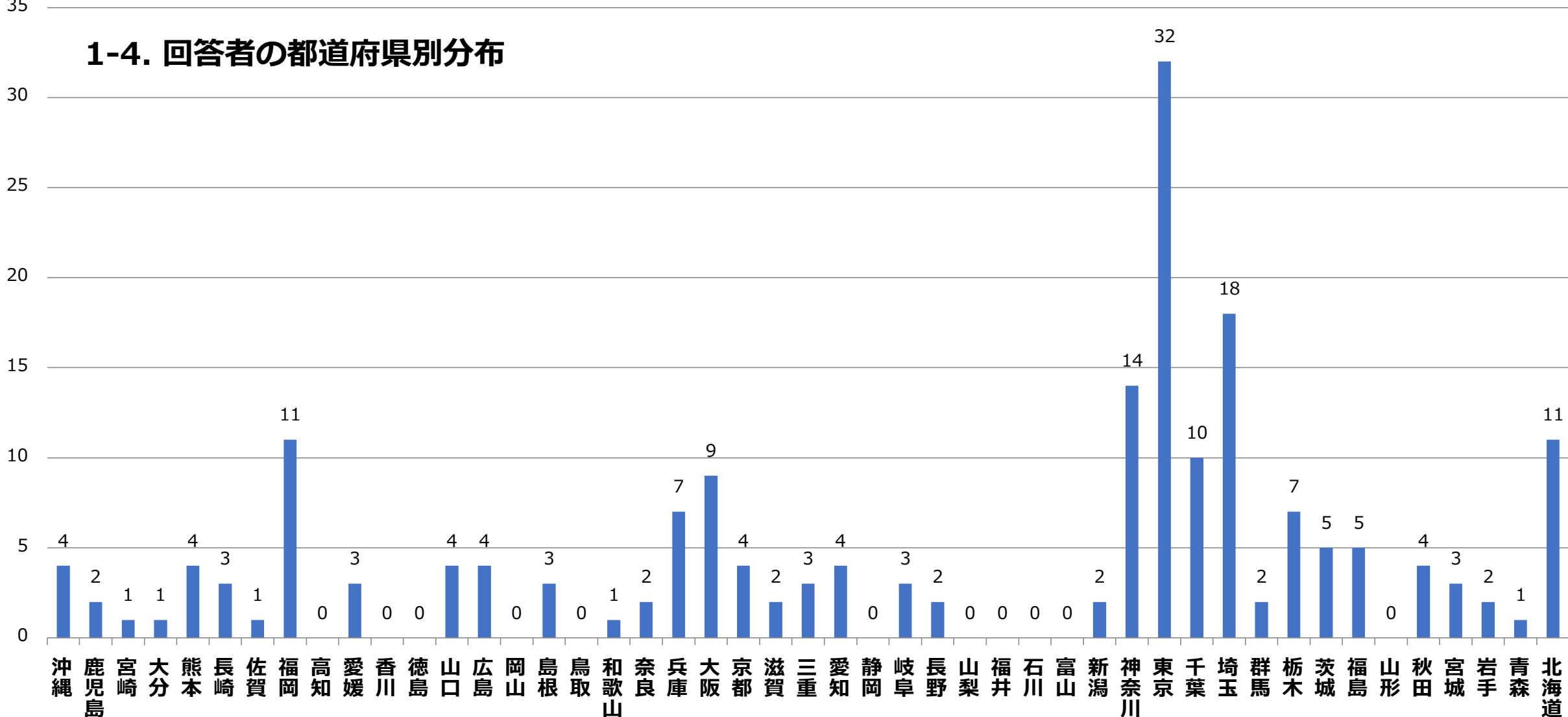
1-1 所属組織の区分をお答えください。(n=194)	回答数	割合
大規模チェーン(21薬局以上)	100	51.5%
中規模チェーン薬局(20薬局以内)	50	25.8%
個人経営単店舗	32	16.5%
個人経営2店舗	4	2.1%
ドラッグストア併設の調剤薬局	4	2.1%
薬剤師会経営薬局	3	1.5%
一般社団法人経営薬局 単店舗	1	0.5%
1-2 薬局の立地区分をお答えください。(n=194)	回答数	割合
がん診療連携拠点病院等の門前薬局	50	25.8%
地域総合病院の門前薬局	38	19.6%
クリニックの門前薬局	32	16.5%
大学病院の門前薬局	29	14.9%
面応需型の薬局	26	13.4%
病院敷地内薬局	9	4.6%
医療モール内薬局	5	2.6%
その他 病院の門前薬局	5	2.6%

1-3 主に処方箋を応需する医療機関をお答えください。(複数回答可) (n=194)	回答数	割合
がん診療連携拠点病院等	83	29.0%
診療所・クリニック	83	29.0%
地域総合病院	70	24.5%
大学病院	48	16.8%
特別養護老人ホーム関連後方支援	1	0.3%
在宅診療所	1	0.3%



(人)

1-4. 回答者の都道府県別分布



2. 薬薬連携の状況について(n=194)

◎ 特定薬剤管理指導加算2に関しては、下記の3群に分類して回答を依頼した。

2-1特定薬剤管理指導加算2の届出状況 及び算定実績の有無についてお答えください (n=194)	回答数	割合
①届出あり、算定実績あり	74	38.1%
②届出あり、算定実績なし	62	32.0%
③届出なし	58	29.9%

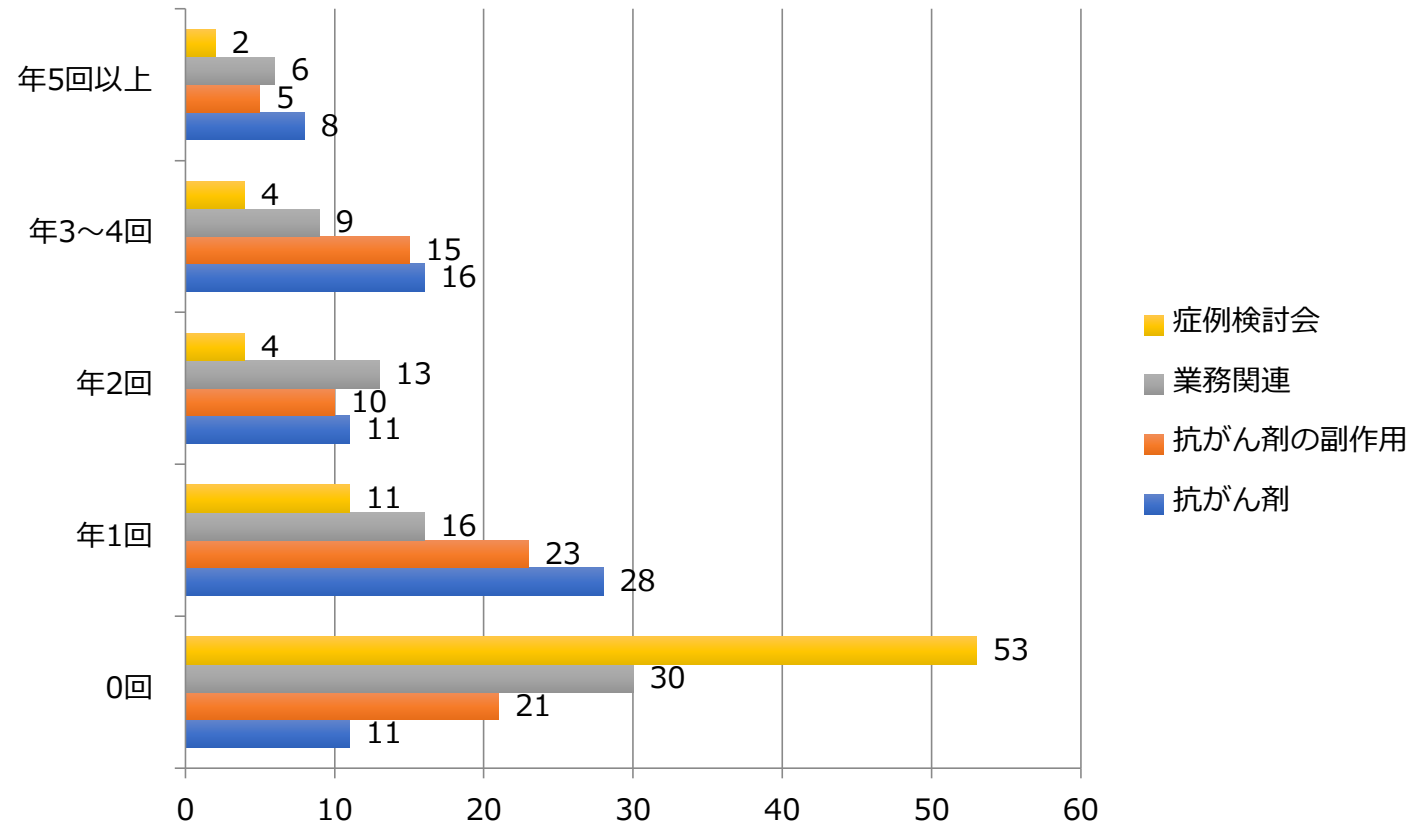
回答したJASPO薬局会員の7割の施設では、特定薬剤管理指導加算2の届け出をしている

①届出あり、算定実績あり (n=74)

2-2 医療機関との情報共有に使用しているツールをお答えください (複数回答可)		
トレーシングレポート (FAX)	70	40.7%
トレーシングレポート (メール)	3	1.7%
トレーシングレポート (持参)	2	1.2%
トレーシングレポート (郵送)	1	0.6%
お薬手帳	48	27.9%
電話	40	23.3%
患者情報日誌 (連絡帳)	5	2.9%
地域医療情報ネットワーク	1	0.6%
Dr.joy	1	0.6%
連携シート	1	0.6%

①届出あり、算定実績あり (n=74)

2-3. 貴施設において、2019年4月1日から2020年3月31日までに行われた薬薬連携に関する会議等への参加状況についてお答えください。



①届出あり、算定実績あり (n=74)

	中央値	範囲
2-4 連携充実加算を算定する医療機関が2020年4~6月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	3.5件	0-1000件
2-5 連携充実加算を算定する医療機関が2020年7~10月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	12件	0-1500件

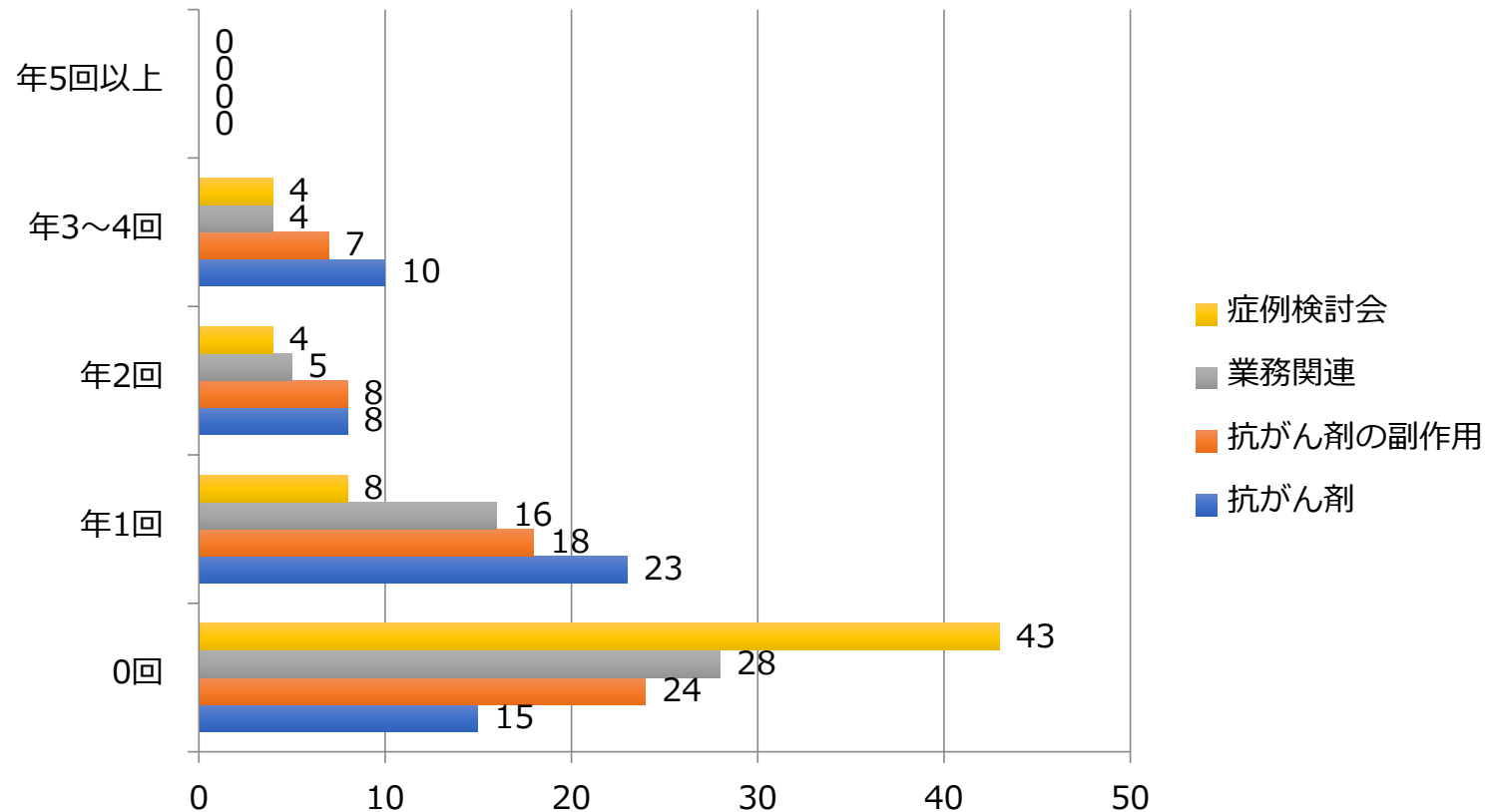
時期の経過と共に、情報提供書の受け取りが浸透してきている

②届出あり、算定実績なし (n=62)

2-2 医療機関との情報共有に使用しているツールをお答えください (複数回答可)		
トレーシングレポート (FAX)	43	31.9%
トレーシングレポート (メール)	5	3.7%
トレーシングレポート (持参)	2	1.5%
トレーシングレポート (郵送)	1	0.7%
お薬手帳	36	26.7%
電話	39	28.9%
患者情報日誌 (連絡帳)	4	3.0%
メディカルケアステーション (MCS)	1	0.7%
活用していない	4	3.0%

②届出あり、算定実績なし (n=62)

2-3. 貴施設において、2019年4月1日から2020年3月31日までに行われた薬薬連携に関する会議等への参加状況についてお答えください。



②届出あり、算定実績なし (n=62)

	中央値	範囲
2-4 連携充実加算を算定する医療機関が2020年4~6月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	0件	0-30件
2-5 連携充実加算を算定する医療機関が2020年7~10月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	0件	0-30件

算定実績のない施設では、医療機関からの情報不足により算定できていない可能性

②届出あり、算定実績なし (n=62)

医療機関側
の問題

薬局側
の問題

患者側
の問題

2-6 届け出を行っているが加算の算定に至らなかった理由があればご記載 ください。

病院がgrade2以上の副作用を聴取した場合のみしかトレーシングレポートを受け付けないため
処方元医療機関が連携充実加算の算定要件を満たしていないため

レジメンが未開示

病院が準備段階のため

抗がん剤が院内処方のため

薬局が準備段階のため

診療報酬改定前から行っており途中から料金を請求するということができなかったため

患者側の拒否

加算についての理解が足りていないため

算定対象の患者が来局しなかったため

現状で算定実績のない施設では、医療機関側の体制整備の問題点が多い

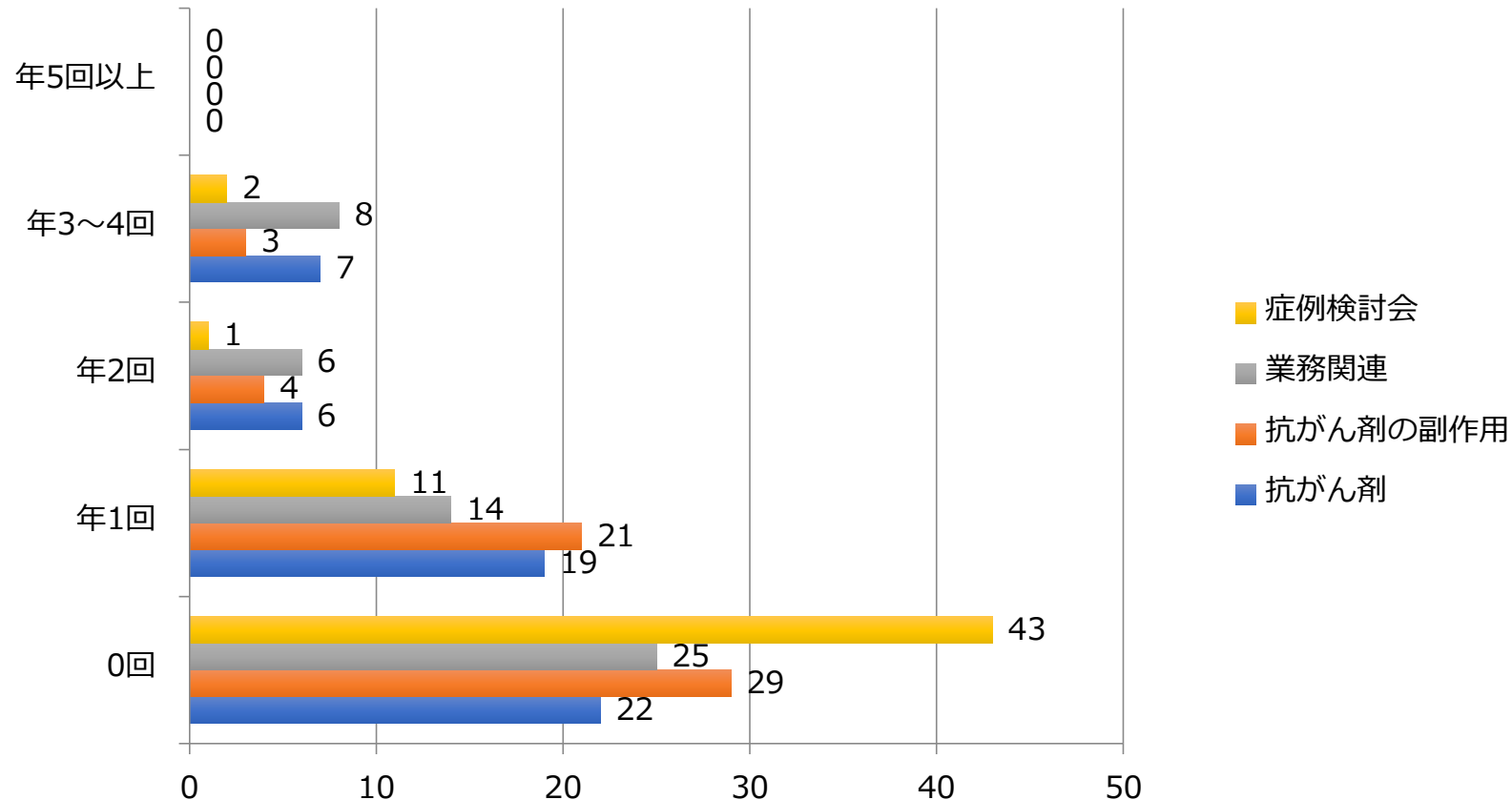
③届出なし (n=58)

2-2 医療機関との情報共有に使用しているツールをお答えください (複数回答可)		
トレーシングレポート (FAX)	42	34.1%
トレーシングレポート (メール)	3	2.4%
トレーシングレポート (持参)	1	0.8%
お薬手帳	40	32.5%
電話	33	26.8%
患者情報日誌 (連絡帳)	3	2.4%
活用していない	1	0.8%

届出の有無に関わらず、医療機関との情報提供ツールの活用状況は変わらない

③届出なし (n=58)

2-3. 貴施設において、2019年4月1日から2020年3月31日までに行われた薬薬連携に関する会議等への参加状況についてお答えください。



③届出なし (n=58)

	中央値	範囲
2-4 連携充実加算を算定する医療機関が2020年4~6月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	0件	0-5件
2-5 連携充実加算を算定する医療機関が2020年7~10月の間に発行した情報提供書の受け取り件数をお答えください。	0件	0-60件

③届出なし (n=58)

医療機関側
の問題

薬局側
の問題

その他

2-7 届出を行っていない理由をお答えください (複数回答可)	回答数	割合
病院のレジメンが公開されていない	28	25.7%
近隣病院で連携充実加算を取得していない	2	1.8%
病院が、基準をみたしていない	1	0.9%
処方元が研修会を開催せず	1	0.9%
病院 との連携が取れていない	30	27.5%
算定要件である薬剤師の勤務年数に該当していない	6	5.5%
算定要件である麻薬小売業の免許を取得していない	1	0.9%
算定要件である研修会へ参加できていない	19	17.4%
薬剤師のマンパワー不足	15	13.8%
COVID-19による研修会の延期	1	0.9%
届出準備中	2	1.8%
対象となる患者が来局しない	3	2.8%

3.COVID-19流行に伴った薬剤師業務の 変化について (n=194)

3-1 COVID-19流行前後において、以下の選択肢の中から業務量が減少したことを選択してください
(複数回答可)

	回答数	割合
患者問診	56	28.9%
処方監査	62	32.0%
調剤	85	43.8%
服薬指導	69	35.6%
テレフォンフォロー	2	1.0%
在庫管理	12	6.2%
疑義照会	18	9.3%
情報提供 (情報提供書作成など含む)	17	8.8%
OTC相談	28	14.4%
減少した業務はない	92	47.4%

3-2 3-1で選んだ業務の中で特に減少したと思う業務を1つ選択してください

	回答数	割合
患者問診	17	8.8%
処方監査	3	1.5%
調剤	53	27.3%
服薬指導	15	7.7%
テレフォンフォロー	0	0.0%
在庫管理	2	1.0%
疑義照会	1	0.5%
情報提供 (情報提供書作成など含む)	2	1.0%
OTC相談	10	5.2%
減少した業務はない	90	46.4%

3-3 COVID-19流行前後において、以下の選択肢の中から**抗がん剤治療関連の業務**で**減少**したことを選択してください（複数回答可）

	回答数	割合
患者問診	16	8.2%
処方監査	19	9.8%
調剤	25	12.9%
服薬指導	26	13.4%
テレフォンフォロー	2	1.0%
在庫管理	2	1.0%
疑義照会	1	0.5%
情報提供（情報提供書作成など含む）	7	3.6%
OTC相談	2	1.0%
減少した業務はない	150	77.3%

3-4 3-3で選んだ業務の中で特**に減少**したと思う業務を1つ選択してください

	回答数	割合
患者問診	10	5.2%
処方監査	2	1.0%
調剤	15	7.7%
服薬指導	12	6.2%
テレフォンフォロー	0	0.0%
在庫管理	0	0.0%
疑義照会	0	0.0%
情報提供（情報提供書作成など含む）	5	2.6%
OTC相談	1	0.5%
減少した業務はない	149	76.8%

3-5 COVID-19流行前後において、以下の選択肢の中から業務量が**増加**したことを選択してください
(複数回答可)

	回答数	割合
患者問診	13	6.7%
処方監査	10	5.2%
調剤	9	4.6%
服薬指導	17	8.8%
テレフォンフォロー	114	58.8%
在庫管理	25	12.9%
疑義照会	22	11.3%
情報提供 (情報提供書作成など含む)	43	22.2%
OTC相談	14	7.2%
増加した業務はない	50	25.8%

3-6 3-5で選んだ業務の中で特**に増加**したと思う業務を1つ選択してください

	回答数	割合
患者問診	2	1.0%
処方監査	2	1.0%
調剤	2	1.0%
服薬指導	4	2.1%
テレフォンフォロー	90	46.4%
在庫管理	14	7.2%
疑義照会	3	1.5%
情報提供 (情報提供書作成など含む)	8	4.1%
OTC相談	4	2.1%
増加した業務はない	48	24.7%

テレフォンフォローは明らかに増加した業務として認識されている。

3-7 COVID-19流行前後において、以下の選択肢の中から**抗がん剤治療関連の業務で増加**したことを選択してください（複数回答可）

	回答数	割合
患者問診	5	2.6%
処方監査	3	1.5%
調剤	4	2.1%
服薬指導	12	6.2%
テレフォントロ	81	41.8%
在庫管理	8	4.1%
疑義照会	6	3.1%
情報提供（情報提供書作成など含む）	28	14.4%
OTC相談	6	3.1%
増加した業務はない	105	54.1%

3-8 3-7で選んだ業務の中で**増加**したと思う業務を1つ選択してください

	回答数	割合
患者問診	0	0.0%
処方監査	1	0.5%
調剤	0	0.0%
服薬指導	1	0.5%
テレフォントロ	74	38.1%
在庫管理	3	1.5%
疑義照会	2	1.0%
情報提供（情報提供書作成など含む）	4	2.1%
OTC相談	1	0.5%
増加した業務はない	105	54.1%

抗がん薬関連でもテレフォントロは増加しているが、業務量に変化がないと回答した方も多い。

◎ 業務量の変化を感じていない割合

i) 通常の業務で3-2「減少していない」、かつ3-6「増加していない」を選んだ人数**29名**
(14.9%)

ii) 抗がん剤関連業務で3-4「減少していない」、かつ3-8「増加していない」を選んだ人数**90名**
(46.4%)

iii) 全ての業務で増減がないと答えた人数**23名** (11.9%)

i) 通常業務に変化なし			ii) 抗がん剤関連業務に変化なし			iii) 業務量の増減なし		
立地区分	人数	割合	立地区分	人数	割合	立地区分	人数	割合
がん診療連携拠点病院等の門前薬局	7	24.1%	がん診療連携拠点病院等の門前薬局	15	16.7%	がん診療連携拠点病院等の門前薬局	5	21.7%
地域総合病院の門前薬局	7	24.1%	地域総合病院の門前薬局	15	16.7%	地域総合病院の門前薬局	3	13.0%
クリニックの門前薬局	3	10.3%	クリニックの門前薬局	23	25.6%	クリニックの門前薬局	3	13.0%
大学病院の門前薬局	4	13.8%	大学病院の門前薬局	11	12.2%	大学病院の門前薬局	4	17.4%
面応需型の薬局	3	10.3%	面応需型の薬局	14	15.6%	面応需型の薬局	3	13.0%
病院敷地内薬局	3	10.3%	病院敷地内薬局	6	6.7%	病院敷地内薬局	3	13.0%
医療モール内薬局	0	0.0%	医療モール内薬局	3	3.3%	医療モール内薬局	0	0.0%
その他 病院の門前薬局	2	6.9%	その他 病院の門前薬局	3	3.3%	その他 病院の門前薬局	2	8.7%

4.COVID-19流行下での薬局の変化について(n=194)

4-1 COVID-19流行下で実際に行った対応を選んでください（複数回答可） (n=194)	回答数	割合
0410対応	147	75.8%
CoV自宅	27	13.9%
CoV宿泊	5	2.6%
対応実績なし	11	5.7%

4-2 経口抗がん薬(細胞障害性・分子標的治療薬)の受け取り方法の変化について当てはまる選択肢を選んでください (n=194)

変化	回答数	割合
変化なし	147	75.8%
ご家族の来局が増えた	27	13.9%
在宅等でのお届けが増えた	5	2.6%
郵送件数が増えた	11	5.7%
FAXでの先調剤が増えた	1	0.5%
受診を先延ばしにした	2	1.0%
面（地元の薬局での受け取り）へ流れることが多くなった	1	0.5%

4-3 経口ホルモン剤の受け取り方法の変化について当てはまる選択肢を選んでください (n=194)

変化	回答数	割合
変化なし	152	78.8%
ご家族の来局が増えた	9	4.7%
在宅等でのお届けが増えた	5	2.6%
郵送件数が増えた	26	13.4%
長期処方が増えた	1	0.5%
面（地元の薬局での受け取り）へ流れることが多くなった	1	0.5%

4-4 医療用麻薬の受け取り方法の変化について当てはまる選択肢を選んでください (n=194)

変化	回答数	割合
変化なし	153	78.9%
ご家族の来局が増えた	26	13.4%
在宅等でのお届けが増えた	15	7.7%

4-5 COVID-19対策として自店舗で実施している対策について選択してください（複数回答可）（n=194）	回答数	実施割合
患者用手指消毒薬の設置	181	93.3%
サージカルマスクの利用	176	90.7%
アクリル板の設置	176	90.7%
サンプル品等の撤去	123	63.4%
FAXや処方箋送信アプリの利用促進	122	62.9%
給茶機の撤去	90	46.4%
薬剤の配達	78	40.2%
キッズコーナーの撤去	78	40.2%
フェイスシールドの利用	53	27.3%
隔離室の設置・利用	35	18.0%
防護服の利用	20	10.3%
N95マスクの利用	0	0.0%

4-6 COVID-19流行後の感染症予防として**抗がん剤治療中の患者に対して特別な対策**を行っている場合はご記載してください

一般の患者さんの投薬口ではない場所での服薬指導及び会計

事前に来局時間を打ち合わせて、混雑時を避ける

なるべく個室で服薬指導をしている

車で待ってもらう

接触時間を減らすため在宅患者では電話で事前に情報を聞き取り自宅での滞在時間を最小限とする

骨髄抑制期にあたる場合は素早い対応、他の患者との距離を保つ事

タッチ式からセンサー式の自動ドアに変えた

事前に電話で副作用等の聞き取りをした後配達するようにしている

4-7 COVID-19流行直後に衛生用品で不足したものを選択してください (複数回答可) (n=194)	回答数	実施割合
体温計の不足	169	87.1%
販売用のマスクの不足	167	86.1%
販売用のアルコール消毒薬の不足	161	83.0%
薬局従業員用のマスクの不足	147	75.8%
薬局従業員用のアルコール消毒薬の不足	129	66.5%
販売用ガーゼの不足	83	42.8%
ラテックスグローブの不足	62	32.0%
調剤用のガウンの不足	31	16.0%
フェイスシールドの不足	24	12.4%

調査総括①

【薬薬連携について】

- 定期的に薬薬連携会へ参加している薬局ほど、特定薬剤管理指導加算2の算定に繋がっている。
- 病院との連携不足、病院がレジメン未開示であることから算定に至らないケースが散見された。
- COVID-19の影響から準備が進んでいない薬局もあるため、今後の動向は経過を見る必要がある。

調査総括②

【COVID-19流行に伴った薬剤師業務の変化について】

●テレフォンプォローの増加は非対面業務へシフトしていること、0410対応に伴い調剤後のフォロアアップを行っていることが考えられる。

●服薬指導は業務量の減少を感じる方が多く、テレフォンプォローが増加していることから対面業務を減らし**非対面での聞き取りに時間をかけるよう業務シフト**していることが考えられる。

●抗がん剤関連業務は通常業務と比べて、服薬指導にかける時間が「減少していない」と感じている方が多い。

●COVID-19による業務量の変化は、通常業務より抗がん剤関連業務において起こりにくい（変わっていないと感じてる割合が高い）。

調査総括③

【COVID-19流行下での薬局の変化について】

- 経口抗がん剤を服用している患者では、来局方法や薬局利用方法に変化が起こりにくい。
- 経口抗がん剤を服用している患者には個別対応や予約制にすることで、COVID-19が感染しにくい薬局利用方法を模索していることが伺える。